


ふりがな 氏名	おいかわ いずみ <b>及川 いずみ</b>	都道府県	<b>東京都</b>	
所属/肩書	<b>東京学芸大学教職大学院</b>			
私のESD活動	<b>(学部)地球子どもキャンプ・卒業研究、(大学院)課題研究・創成研修 ☆ESDをどう授業に組み込むか？</b>			
ESD活動を表すキーワード	<b>開発教育</b>	<b>環境教育</b>	<b>カリキュラム開発</b>	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

#### ・「地球子どもキャンプ」企画運営

学部時代、認定NPO法人IVYが主催する「地球子どもキャンプ」に、キャンプリーダーとして過去3回関わってきました。ESDには様々な新しい教育が包含されますが、「地球子どもキャンプ」は主に環境教育・開発教育に焦点を当てたキャンプです。東北地方の小学4～6年生を対象に、自然の家で2泊3日に渡って行われます。「自然エネルギー」「森」「異常気象」のようにテーマをひとつ設定し、キャンプリーダーはそれに基づく2泊3日のワークショップを分担して作り上げます。

2013年冬に「異常気象」でキャンプを行った際、私はワークショップ「貿易ゲーム」を異常気象版にアレンジし、メインファシリテーターを務めました。内容は、まず子どもたちの班を国と見立てた上で、貿易で集めたお金でアイテムを集め、豊かな国を作らせます。しかし、それぞれのアイテムの裏に付いている赤いシールはCO2の量を表していることを後に知らせます。これにより、豊かな生活によるCO2増加が地球温暖化を引き起こし、異常気象につながることを体感させることができました。このような取り組みはESDにつながるものと考えます。

#### ・卒業研究「教育実践におけるESD・CLILの認知度とその可能性」

私は将来、宮城県で小学校教員としてESDを実践したいと考えています。そのため、学部時代（宮城教育大学）の卒業研究では、教員をめざす学生がどのようにESDを認知しているか調査しました。ESDという言葉を知ったことがない者78%・何の略か知らない者92%でしたが、その一方でESDの実践意欲がある者86%という結果でした。まだ知名度は低いものの、ESDが未来の教員に浸透することを予見させる研究結果となりました。

・IVY youth <http://ivyouth.jimdo.com/global-education/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

・課題研究「小学校における教科横断型ESDカリキュラム開発」・・・現在、東京学芸大教職大学院で、自身の課題研究テーマに「小学校における教科横断型ESDカリキュラム開発」を据え、取り組んでいる最中です。ESDを学級担任が実践するにあたって、ESDの各テーマと各教科内容をつなげることが大切です。ESDカレンダーのようなカリキュラムづくりによって、児童と教師それぞれにどのような良い影響がみられるのか研究していきます。

・創成研修（多摩市立多摩第一小学校）・・・今年の秋から1年半、教職大学院のカリキュラム（創成研修）で週2日、多摩市立多摩第一小学校で研修を行わせて頂きます。多摩市立多摩第一小学校は、環境教育を軸に据えて、理科・生活・総合的な学習の時間等を活用して問題解決型の授業づくりに取り組んでいます。小学校の部でESD大賞を受賞したこともある先進校で、ESD実践のようすを観察・分析し、また自身も一部の授業を行わせて頂く予定です。